

藤野陽三学長おすすめ図書(続き)

『医療につける薬』は薬学の本ではありません。広い意味での医療のあるべき姿を考えようとする本で、医療とは「人間を相手にするものである。病気を対象とするべきではない」という趣旨の本です。薬学も医療の一環であり、医者、看護師、介護士らとチームを組んでやることの大切さを語っています。哲学者との対談も入っていて読みやすい本です。

医療につける薬
岩田健太郎著
筑摩書房
2014年6月



知の時代と言われています。人工知能はどこまで発展するのでしょうか。今後、知がどのように展開するのでしょうか。知を代表する世界の識者数十名にサイエンスライター吉成真由美さんがインタビューしてまとめたものです。知をリードする人達が何を言うのか、是非、読んでみてください。

人類の未来
ノーム・チョムスキー [ほか] 著
2017年4月



知の英断
ジミー・カーター [ほか] 著
2014年4月



知の逆転
ジャレド・ダイアモンド [ほか] 著
2012年12月



3冊とも、吉成真由美インタビュー・編、NHK出版

その他の紹介本

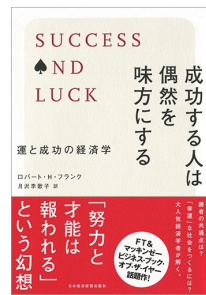
Come On! 目を覚まそう!
エルンスト・フォン・ワイツゼッカー,
アンダース・ワイクマン編著
明石書店
2019年12月



知的技法としてのコミュニケーション
児島建次郎編著
山田匡一, 寺西裕一, 都築由美著
ミネルヴァ書房
2017年3月



成功する人は偶然を味方にする
ロバート・H.フランク著
日本経済新聞出版社
2017年3月



橋をかける
美智子著
文藝春秋
2009年4月



思考の整理学
外山滋比古著
筑摩書房
1986年4月



考える力
外山滋比古著
海竜社
2019年2月



本は君の人生を豊かにしてくれます

城西大学学長 藤野 陽三

私は本が好きです。今でも毎月5冊は購入しています。写真、家の本棚で、この10倍ぐらいの本が家の本棚とかにあると思います。

若い時からそれほどたくさんの本を私が読んできたわけではありません。しかし、年とともに、本をたくさん読んでおくことが大切だと感じるようになりました。新聞も4大紙は目を通し、気になる記事は切り抜きます。新刊書の情報も新聞から得る場合が多いです。

もちろん今の時代はネットで知りたいことはいくらでも情報が集まります。知りたいことを知するという意味では、検索機能がついているネットは極めて強力な武器です。このように、ネットはあるトピックの情報をいろいろ集めるというのには適していますが、あるトピックに関する考えを体系的にまとめて獲得するのには適していないように思います。後で振り返って、読み直してみるのもネットは不適です。

沢山の本に接することで、世の中のいろいろな考え方が分かり、我々の先輩の経験を知り、自分の幅が広くなり、奥行きが出てくるように思います。電子ネット時代に育った皆さんは本にあまり馴染みがないかもしれません。ネットでは味わえない「本」のよさを、図書館で経験、体験してください。



我が家の私の部屋の本棚

今回は **藤野陽三学長** より学生の皆さんに向けたメッセージ(巻頭言)とともに、おすすめの本を紹介していただきました。推薦本はすべて1階「教員おすすめ図書コーナー」で借りられます。



図書館HP
<https://libopac.josai.ac.jp/>



図書館Twitter
https://twitter.com/lib_josai



藤野陽三学長

学生の皆さんに本を推薦してくださいと言われ、私の身の回りにある本を10冊以上推薦することになりました。どの本も、皆さんが読むと色々な意味で参考になると思います。

おすすめ図書

特に1年生に推薦するのが『新・大学で何を学ぶか』という本です。これは東京工業大学の先生方が新入生に向けて語り掛ける本です。リベラルアーツ系の先生を中心に色々な分野の方が書かれています。大学の「学び」と高校での「学び」はかなり違います。大学での学びとその楽しさを知ってもらいたく、この本を書くことにしたのだそうです。私も皆さんに、大学での学び方を早く知って、学ぶことの楽しさを味わっていただきたいと思います。それが出来るようになれば、大学で学ぶことの意義を半分以上達成できたとも言えると思います。

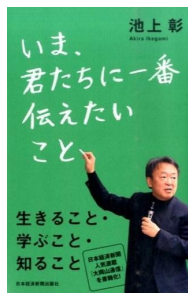
新・大学で なにを学ぶか

上田紀行編著
岩波書店
2020年2月



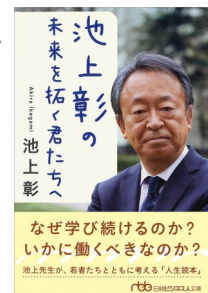
いま、君たちに 一番伝えたいこと

池上彰著
日本経済新聞出版社
2015年4月



池上彰の未来を 拓く君たちへ

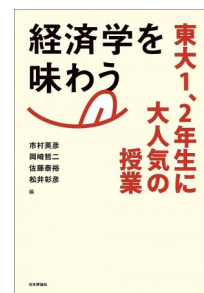
池上彰著
日本経済新聞出版社
2020年1月



『経済学を味わう』という本は、東大教養学部で経済学部進学予定の学生に経済学の面白みを知ってもらうという主旨で最近始められた講義を書籍化したものです。今年はコロナ禍でオンラインで講義が行われ、それもあって、理系の学生の聴講が増え、受講者が1000名を超えたと聞いています。理系の学生でも読みやすい本になっていますので、社会科学の一つとして重要な地位を占める経済学をぜひ味わってみてください。

経済学を味わう

市村英彦 [ほか] 編
日本評論社
2020年4月



日本は先輩、後輩を大事にするタテ社会と言われていました。上下関係がはっきりした社会という事です。このタテ社会という言葉が50年以上前に世の中に流行らせたのは女性学者の中根千枝先生による『タテ社会の人間関係』です。タテ社会の限界、問題点が色々述べられています。これもベストセラーになり100万部を超え、今でも売られています。50年経ち、日本の社会は変わった面もありますが、まだまだタテ社会で、昨年、『タテ社会と現代日本』（中根千枝著）という本が出され、非正規雇用やパワハラなどの問題がタテ社会が起因となっていることを述べています。なお、中根千枝先生は女性で初めて文化勲章をとられた方です。私は日本のタテ社会が好きではなく、山岸俊男先生が提案している“信頼社会”、つまりヨコ社会をモットーの一つにしています。対談形式で書かれている『リスクに背を向ける日本人』という本はとても読みやすい本で、別の角度から日本のタテ社会を批判しています。

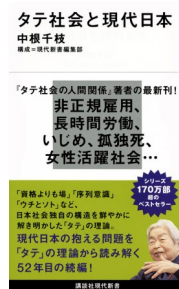
タテ社会の 人間関係

中根千枝著
講談社
1967年2月



タテ社会と 現代日本

中根千枝著
講談社
2019年11月



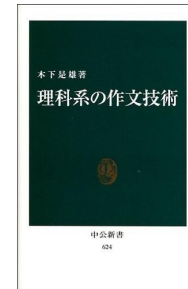
リスクに背を 向ける日本人

山岸俊男、
メアリー・C・ブリントン著
講談社
2019年11月



理科系の作文技術

木下是雄著
中央公論新社
1981年9月



物理の散歩道

ロゲルギスト著
岩波書店
1963年4月



『ここにしかない大学』という出口治明さんの本は、私と同じように70歳になって大学学長を経験した方の本です。この方は保険会社を経て、60歳で新しいライフネットという新しい会社を設立した企業経営者でもあります。大分県別府にある立命館アジア太平洋大学APUをいかに魅力的な大学にするかを述べています。私にとり、とても参考になった本です。皆さんと力を合わせて、城西大学をより魅力的な大学にしたいと思っています。なお、出口さんは1万冊以上の数の本を読んだと言われ、世界史、日本史に通じた大変な教養人です。私などは、最近でた『還暦からの底力』にもいろいろ教えられました。

ここにしか ない大学

出口治明著
日経BP
2020年5月



還暦からの 底力

出口治明著
講談社
2020年5月



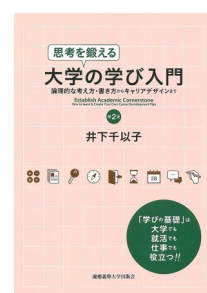
社会的共通 資本

宇沢弘文著
岩波書店
2000年11月



思考を鍛える 大学の学び入門

井下千以子著
慶應義塾大学出版会
2020年1月



学びの ティップス

近田政博著
玉川大学出版部
2020年5月



木下是雄先生の『理科系の作文技術』は、言ってみればレポートをどのように書くかという事を教えてくれる本です。皆さんも、レポートというのはこれまでも書いてきたと思いますが、レポートを書くにもルールがあり、技術が必要です。ただ書けばいいというものでは全くありません。この本は基本的なルールを丁寧に、例を交えながら説明しており、多くの方に読まれてきた名著です。1981年に初版が出され、100万部以上も刊行されました。ちなみに、著者の木下是雄さんはロゲルギストという物理学者のグループの一人で、『物理の散歩道』という有名な物理の随想シリーズの著者としても有名な方です。私も若い頃、この『物理の散歩道』を何度となく、読み返しました。なお、『理科系の作文技術』は文系の方にも参考になる本で、文系の先生が推薦される本の一つにもなっています。レポートをちゃんと書けるようになるというのはとても重要なことですので、この本からそれを是非、学んでください。